

《中学生の部》

「少しの勇氣」

有田市立保田中学校 1年

池田 愛斗さん



僕は、普段あまり電車に乗ることはないけれど、先日友達といっしょに電車に乗る機会がありました。電車には、仕事へ行く人、遊びに行く人などいろいろな人がいました。

電車に乗って一か所だけ席があいていたので友達と座りました。クーラーもきいていて、友達と話をしながら快適な時間を過ごしていました。少し大きな声を出すと周りの人に見られたりすることがありました。「電車の中では、静かにする。」「お年寄りや障害者、小さい子連れ、妊婦さんには、席をゆずる。」ということは、僕の頭の中には、知識として入っていました。でも、実際大きな声でしゃべったり、笑ったりしてしまっていました。

乗りかえをした電車は、人がすごく多く、座れる状態ではなかったので、僕は、立っていました。立っている中に、お年寄りの方も、小さい子連れのお母さんもたくさんいました。その時、僕は何も思わず、早く座りたいなどと友達と話をしていました。

次の駅で、乗ってきた一人のお年寄りが、すごく重そうな荷物を持っているのがしんどそうでした。そのお年寄りの周りで座っている人たちは、気にもせず寝たり、話をしたりしていました。僕は、それを見て、なにかおかしいなと感じました。この人たちは、お年寄りに席をゆずらないのかな…。

そう思いながら僕もそれを見ているしかできませんでした。結局お年寄りの人は座ることなく降りていきました。僕はずっと心の中がもやもやしていました。周りの座っている人になりたいのもやもや、何もできない自分にたいしてもやもや…。

このお年寄りの目の前で僕が座っていたら「座ってください」の一言が言えていたかと問われると、僕は自信をもって「はい」とは言えなかったと思います。僕の頭の中には、ゆずるという知識はたしかに入っていたけど、それを行動にうつせなかったらその知識はないのと同じです。

「座ってください。」その一言であのお年寄りの人を笑顔にすることができません。それを分かっているも行動にうつせなかった僕は、まだまだ未熟だなと思いました。

電車だけに限らず普段の生活にも、少しの勇氣を出すだけで、人の役に立ったり、一人の人を笑顔にすることができます。これからは、頭の中で思っていることを、少しでも行動にうつせる人間になりたいです。